

令和6年度

藍住西小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「自他の大切さを認め合い、ともに生きる子供の育成」
～主体的・対話的で深い学びを通して、他者と協働しながら
ともに学びを創りだす力を身に付けた子供の育成～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
---------	----	----

【小中連携または中高連携における共通の取組】

ICTの効果的な活用と話し合い活動の充実により、児童生徒の学力向上を図る。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決まったことは真面目に取り組むことができる児童が多く、漢字や計算などを繰り返し学習することで定着を図ることができている。 ●学年が進むほど学力の開きが大きく、応用問題で既習事項を活用することに課題がある。	・各学年の基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ・学習で身につけた知識・技能を、生活や他の場面で活用することができる。	・学年タイムや家庭学習の充実により、漢字や計算の基礎・基本の定着を図る。 ・音読やNIE、週末読書を継続的に実施し、多くの文に触れさせ、「読むこと」の技能を身につけさせる。 ・ICT機器を効果的に活用し、繰り返し学習に取り組んだり、間違いやすい点に自ら気付いたりできるようにする。	・児童が目的をもって、読むことに取り組む環境を教師が設定する。 ・ICT機器を効果的に活用していく。(ナビマ・ジャストスマイル)	・漢字と計算の小テストや読書の機会を増やすことで、各学年の基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができた。 ・タブレット端末のドリルを活用して、自分のペースで復習に取り組むことができた。 ・学習で身につけた知識・技能を、生活や他の場面で活用することに課題が残った。	・学年段階に応じてタブレット端末の幅を広げ、主体的な学習につなげるように整理をする。 ・学年タイムなどに、学習内容を活用した学びにチャレンジできる場面を意図的に設定する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話型や定型文に沿って、自分の意見や考えを発表することができる。 ●自分の考えをまとめたり表したりすることに苦手意識がある児童が多い。	・自分の考えをもち、場に応じた言葉で書いたり発表したりすることができる。 ・自分の考えと友達の考えを比べながら聞くことができる。	・国語の学習や日記など、表現する活動の中で、辞書や資料を活用し、様々な言葉にふれさせる。 ・ペア学習やグループ学習を効果的に設定し、相手の考えを聞いたり自分の考えを伝えたりする経験を増やす。	・辞書や資料を活用できるように、教師から声をかける。 ・話型、例文を示して自分で説明する力を付けさせる。	・語彙を豊かにするために読書の時間や週末読書を取り入れ、本に親しむ機会を増やすことができた。 ・「話し合いの手引き」をもとにペアやグループでの話し合い活動が進められつつある。	・週末読書などの読書活動を継続して進めていく。 ・自分の考えを伝えることができるよう、今後も話型を提示していく。 ・多様な考えを聞き合い、深く理解する機会を増やす。(ペア学習・グループ学習など)

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○どの学習に対しても、前向きに取り組もうとしている。 ●文章題や応用問題になると、あきらめてしまう児童が多い。	・課題を解決するために、見通しをもって学習に取り組むことができる。 ・授業で示されている課題が終われば、自ら学習課題をみつけ、粘り強く自分で取り組むことができる。 ・読書活動や家庭学習に主体的に取り組むことができる。	・毎時間授業のめあてを設定し、何を学ぶことができたか振り返りを充実させ、次時への見通しや意欲を高める。 ・スモールステップで成功体験を積み重ねるとともに、PBSを積極的に実施し、なぜほめられたか児童が納得でき、次につながる機会を増やす。 ・ICT機器を活用し、学習の中で自主的に取り組む機会を設ける。	・めあての掲示と振り返りを継続して取り組む。 ・見本となる授業中の態度やノートを他の児童に紹介したり、個々の成長を細やかに観察して認めたりして主体的に取り組む態度を育てる。	・見やすくまとめているノートや自主的に学習してきたノートを紹介する(自主勉コンクール)ことで、まとめ方が分り、進んで学習に取り組む児童が増えた。 ・めあてを設定し、見通しをもって学習することで、目標達成に向けて前向きに取り組んでいる。	・スモールステップ(小テストやミニプリントなど)で成功体験を積み重ねていくことで、やってみようという気持ちを育てていく。 ・読書活動や家庭学習の定着を目指して、家庭にも啓発していく。 ・振り返りの充実を図る。

令和6年度 学力向上ロードマップ

